

天然記念物

８０．石田家（いしだけ）のタブノキ

■指定年月日　昭和 52 年 8 月 22 日（1977）

■所　在　地　大谷町（東西）

■寸　　法　樹高 20 m　幹周（胸高）7.7 m

■所　有　者　個人

大谷町の大谷川右岸、通称うしろ町背後の段々畑の崖縁に立っている。

地上 2 m付近から数本に分岐しているが、その中の最大のものが主軸をなし、他は枝状に散開し、枝を広げてまとまりのよい樹形を形成しよく繁茂している。

タブノキは、暖帯系常緑広葉樹の高木で、能登半島の沿岸平野部に自生して、自然景観をつくる主役となっており、その巨樹は特に珠洲市内に多く見られる。胸高周り 4 mを超える木は『石川県の巨樹』によると市内だけでも 26 本を数えるが、それらの中でも、このタブノキは枝張りが最大の巨樹で、樹勢が旺盛で樹形がすぐれている。

寺社や旧家の敷地でタブノキの大木を目にすることがあるが、そうした木をモリギ（守木）と呼んで大切にしている。タブノキは、淡い芳香があるからとか、火伏せ（防火）の効果があるからなどといわれているが、威風漂うその姿が好まれたことが、大きな理由であろう。